

東日本大震災 復興・支援活動ニュースレター

カトリック仙台司教区・カリタスペース

発行人：平賀徹夫
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座:02260-9-2305
名義:カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座:00170-5-95979
名義:カリタスジャパン

もうすぐ震災から丸 9 年になるうとしています。今年も例年のように、3 月 11 日発災当日に、被災地をはじめいろいろな場所で、犠牲者追悼、被災地復興を祈願する行事が行われる予定でした。しかし、新型コロナウイルスによる感染者が日本各地で見つかり、2 月末から 3 月中旬にかけて感染拡大を抑えられるかどうかの瀬戸際であるとのことから、この度、カトリック仙台司教区「3.11 東日本大震災 犠牲者追悼・復興祈願ミサ ～ともに復興をめざして～」は開催を中止することにいたしました。また、「第 7 回いのちの光 3・15 フクシマ」など、他にも開催中止となっている行事がございます。開催の有無について、それぞれご確認くださいませようをお願いいたします。

今回は、1 月末に行われました「第 39 回全ベース会議」の様子をお伝えします。また、カトリック亶理教会を会場に、毎月さまざまな企画を準備し、被災者の皆さんに寄り添い続けているオリーブの会から、8 回目となる新年の集いについてご報告がありましたので、ご紹介します。

第 39 回全ベース会議

仙台教区サポートセンター 濱山麻子 長谷川昌子

1 月 31 日、元寺小路教会で第 39 回全ベース会議が開催されました。岩手・宮城・福島のカリタスペースのベース長、カリタスジャパン、全国の復興支援担当者が出席しました。

まず全ベースから、昨年 8 月以降の活動の報告が行われました。

宮古ベースは「カリタスみやこ」として、昨年 5 月より宮古教会が主体となって活動を続けています。教会でのカフェと並行して続けてきた山田町でのカフェは今年 3 月まで、そして台風被害の被災地である岩泉町の仮設住宅でのカフェは、復興住宅の完成に伴い、昨年 12 月で終了しました。今後は教会でのカフェが中心となり、これまで活動に参加してきた盛岡の 3 教会（志家、盛岡上堂、四ツ家）は、宮古からの要請があった時に参加することになります。札幌カリタスは、毎年行って宮古の市民に定着している札幌交響楽団の演奏会をはじめ、今後も後方からの支援を続けるということです。

カリタス釜石は釜石教会でのサロン「ふいりあ」を継続しており、市民や行政にも定着しています。また、グリーフケアやスピリチュアルケアを学んだボランティアによる戸別訪問も継続しており、震災から 9 年が経とうとしているこの時期になってやっと話せることもあり、継続した寄り添いの重要性を感じています。

大船渡ベースは定期的な活動として、買い物が不便な高齢者のために送迎を行っています。そのタイミングと合わせて、ベースで月 2 回、昼食会を開くようになりました。高齢者だけでなく子どもたちも集まり、多世代交流の機会となっています。また、昨年の台風 19 号の際は、独居家庭に訪問して声かけを行い、宮城県登米市での被害があったことから、カリタス南三陸と協働し、泥かきや片づけなどの活動に参加したことが報告されました。



カリタス南三陸は、コメの収穫時期と台風被害が重なってしまいましたが、大勢のボランティアの参加があり、被災地での活動と稲刈りを行うことができました。登米市津山の道の駅「津山もくもくランド」は台風で大きな被害を受けたため、片付けや砂利拾いのため、3 月末まで支援を継続することにしています。

石巻ベースは昨年 11 月からスタッフが一人増え、オープンスペースでのサロン活動と並行して、以前仮設住宅でのかかわりがあった方々への戸別訪問を定期的に行えるようになりました。

カリタス南相馬では昨年 10 月から、福島市の宮代仮設住宅から南相馬市へ移った方をはじめ独居の方への戸別訪問が始まりました。原発事故の被災地の状況を多くの人に知ってほしいという地域の方の思いを受けて、現地案内も盛んに行っています。また、台風 19 号による被災地として、宮城県南部の丸森町と角田市で活動を行っています。角田市には、カリタスジャパンの支援をつなぎ、暖房機を贈りました。



【カリタス南相馬による角田市支援】

写真上：避難所での炊き出し

真こころサロンとの共催で、夕食時に合わせて、おにぎりや豚汁など、約 100 食を提供しました

写真左下：ファンヒーター支援

12 月初旬、750 個のファンヒーターが角田市を通して市内豪雨災害被災者へ配布されました。

【仮称】カリタスいわき（いわき教会、聖母訪問会檜葉修道院、さいたま教区が協働）からは、カフェを開いているいわき市内の復興団地の 1 か所、北好間団地でも台風による大きな被害があったことが報告されました。いわき教会から支援物資のオーダーを受けて、さいたまから水やタオル、マスクなどを届けました。北好間団地は台風の被害により 3 月まで集会所が使用できなくなっています。

CTVC（カトリック東京ボランティアセンター）は、カリタス南相馬が行う戸別訪問に月 1 回参加しています。カリタス南相馬は 2019 年に社団法人として独立しましたが、その後もサポートを続けています。

長崎管区では、災害発生時の対応のための体制づくりを行っています。長崎教区内では緊急支援物資の受付先として教会を提供することを検討しています。

カリタスジャパンからは、以前から作成を進めていた『災害対応マニュアル』の完成が報告されました。全国の小教区、教区本部などに送られるほか、実践のためのトレーニングが行われる予定です。



各グループからの報告の後、午後はサポート会議とベース長たちによる会議が別室開催されました。ベース長会議では、2021 年 4 月以降の見通しや、教会としてのカリタスペースが、地域の課題とどのように向き合っていくべきかといったことについて意見交換を行いました。

サポート会議では、司教協議会事務局からの報告と、震災から10年以降の活動の方向性についての話し合いが行われ、最後に2020年度サポート会議の開催日を決定しました。

【2021年4月以降の活動の方向性について】

- ・大阪教会管区：大船渡は、活動を継続させる方向。南三陸は、一般社団法人として活動することを目指している。
- ・東京教会管区：カリタス南相馬は、毎年5,000人の援助会員が集まれば、継続的に運営できるはずである。
- ・仙台教区：カリタス釜石は、釜石市社会福祉協議会との連携を模索中。石巻ベース、サポートセンターについては、ベースの土地や建物を含め、教区と話し合いを進めている最中である。



津波被災者と集う8年目の新年会

八木山オリーブの会 野田 和雄

オリーブの会は、1月22日（水）カトリック亙理教会にて、8回目の新年の集いを行いました。津波被災者と仮設住宅・復興住宅の孤独に寄り添い、8年目を迎えました。自宅再建後もカトリック教会に集まる人々は、震災を共に乗り越えてきた仲間になっています。苦しい時にそばにいた仲間がなつかしくて、月に一度のオリーブの会を楽しみにしています。

今日は、新年にふさわしくお抹茶のお点前と三味線演奏の後にお餅を食べる企画です。お茶の作法やお菓子の説明は、裏千家の近藤宗初さん（八木山教会）です。



着物姿の先生は、お正月らしく華やいだ気分を盛り上げるように茶器や作法を分かりやすく説明してくれます。今日のお菓子は、「はなびらもち」。白い求肥につつまれた紅いあんがほんのりと桜色になり、ごぼうが絶妙にからんで楽しさとおいしさが口の中に広がります。「甘い!」と感じた後に、深緑の抹茶が泡立ち、茶葉の香りが漂ってきます。「おいしい」「うまい」の声がもれてくると、先生もスタッフもうれしそうです。参加者の多くが、お茶を体験し、好きな人が多いので、毎年好評です。



お茶を楽しまれた参加者の皆さん お茶が出されるのを少し緊張気味に待つ方も

抹茶の香りが残る中、うぐいす色の着物姿の男性が入ってきて、三味線の音合わせを始めました。教会の聖堂なのに、日本の原風景のような気分になり、高級な料亭?といった声も聞かれます。三味線奏者

の奥村祐一さんは、今年で3回目。茨城県から毎年応援に来てくれます。まずは「黒田節」。しっかり三味線の音とリズムが体にしみ込めます。気分がのって来ると「大漁節」「上を向いて歩こう」「幸せなら手をたたこう」と手拍子・足拍子まで加わり、会場全体にリズムが広がります。三年目の余裕と自信を感じます。台所で働く人や餅つき器の中の餅まで踊っているようです。

その頃台所では、つきたての餅が雑煮の中に入れられ、ごまあん、納豆にからませています。三味線のリズムに合わせて、盛りつけも調子良く!

演奏が終了すると、会場に机を整え、食卓を作り、雑煮や餅が並びます。全員が協力するので、おつけもの、サラダ、みかん、菓子と多くのものが素早くそろいました。ケーキやみかんは、支援教会からのプレゼントです。

亙理教会の長嶋治夫委員長の食前の祈りが終わると、「いただきま〜す」。つきたての餅は、やわらかく、ごまも納豆も雑煮も好評です。「おかわりある?」「もう食べられないヨ」とにぎやかです。いつもは一人で食事をしている人も多く、オリーブの会で、大勢でにぎやかに食べることがとても喜ばれています。

みかんやケーキは、持ち帰る人が多く、たのしいオリーブの会を家族の人々に分かち合う良い機会になっているようです。



食後はいつものように鈴木隆さんのギターで、歌を歌います。大きな声を出すのは、体にも心にも良いと皆さん笑顔で歌います。選曲をめぐる楽しい会話には、いつも笑顔があふれています。鈴木さんは、皆の人気者です。笑いと歌声がオリーブの会の終わりを盛り上げてくれます。次回は、落語会の予定です。

オリーブの会のように津波被災者が仮設住宅を出た後もカトリック教会に集まり、共に語り合う姿は、全国でも珍しいことだと思います。

被災者の人々が、絆を大切に、仲間のために祈り、しのぶようになりました。食前の祈りが遅れると「お祈りまだ?」と催促されることもありました。

主に恵まれた傾聴ボランティアが出来るようになったのは、長年にわたる教会関係者の祈りと協力があったお陰だと感謝しています。

オリーブの会が、これからも歩み続けていけるように祈りをご支援をお願いします。

